

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

数値化共通項目(全館共通)

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	233	人	A	226人×103%	
				236	人		開館日数:150日 総観覧者数:35,335人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	233	人	A	226人×103%	
				236	人		開館日数:150日 総観覧者数:35,335人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	615	件	C	647件×95%	
				437	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	1,058,027	件	A	494,405件×214%	
				1,206,630	件		更新回数151回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	81	件	A	92件×88%	
				201	件		掲載件数151件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	1,699,000	円	A	当該年度予算計上額	
				2,566,740	円		観覧料2,433,210円、その他133,530円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

必須項目(全館共通)

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	14	件	A	別紙チェックリストによる	
				14	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

館別独自項目

	視点	項目	指標	実施目標達成度		評価	実施目標の設定根拠 特記事項	
1	魅力ある展示	企画展示事業の実施	埼玉の自然情報を発信する企画展の実施状況	3	件	A	別紙チェックリストによる	
				3	件			
2	多様な学習支援プログラムの提供	学習支援システムの確立	学習支援体制の充実度	4	件	A	別紙チェックリストによる	
				4	件			
3	連携・交流	共催・連携展の実施	共催・連携展の実施状況	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	シンクタンク機能	シンクタンク機能の発揮	シンクタンクとしての社会貢献度	8	件	A	別紙チェックリストによる	
				8	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュオープンと体験ゾーンの新設 再オープンにあわせて、来館者自らが触ったり、顕微鏡を操作したりできる体験ゾーンを新設する。あわせて、一部の展示コーナーの整備を行う。 ・解説ボランティア活動の開始 常設展示の展示解説を行うボランティア活動を開始する。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュオープンと体験ゾーンの新設 10月6日～8日にリフレッシュオープン記念イベントを開催し、6,532人に来館いただいた。 リフレッシュオープンにあわせて、ディスカバリーコーナー、触れるはく製コーナー、カエデコーナーからなる体験ゾーンを新設した。実際に手で触ったり、拡大してみたりなど、さまざまな体験メニューを用意したが、来館者の反応はよかった。 ・解説ボランティア活動の開始 10月までの休館中には、各月1回の研修日を設け、研修を行うとともに各人のスキルアップを図った。リフレッシュオープン後は、延べ30人の活動があった。展示解説により、さらに展示が分かるようになったと、好評であった。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	20 (10)	総予算額 (人件費を除く)	16,638,000円	職員一人あたりの県民人口	36.0万人
収蔵資料総点数	151,752	事業経費 (上記の内数)	5,528,000円	利用者一人あたりのコスト (平成23年度)	485円
平成23年度 収集資料点数	2,849	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	1,715,000円 (1,652,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成23年度)	0.55%

(注)平成24年4月1日現在の埼玉県推計人口 7,204,353 人

平成24年 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

	A評価	B評価	C評価
数値化共通項目	5	0	1
必須項目	9	0	0
館別独自項目	4	0	0
総合評価	96%【55点÷(19項目×3点)×100】		

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年9月より昨年10月まで大規模改修工事による休館中であり、10月6日に再オープンした。このため、通常の開館年とは異なるデータになっている可能性が高い。 ・数値化共通項目で、レファレンス対応件数以外はA評価であった。入館者数、事業情報の発信、経営努力は、リフレッシュオープンおよびその後の来館者増等の影響と考えられる。一方、レファレンス対応はC評価であったが、これは年度前半部の休館による影響と考えられる。 ・必須項目、館独自項目はすべての項目においてA評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュ感の維持・創出と来館者数の確保 ・体験ゾーンの学校等の利用方法・拡大に関する広報
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の不断の見直しによるリフレッシュ感の維持・創出 ・展示解説ボランティアの展示解説による展示理解度、満足度の向上 ・学校等への効果的な情報発信の推進 ・観光地「長瀬」の地を活かした観光資源機能の充実

●リフレッシュオープンと体験ゾーンの新設、また解説ボランティア活動の開始による入館者の確保と好評価も獲得は、ひとまずの成果として喜ぶたい。

しかし、事業の基本である常設展示がリニューアルされていないため、今後どれだけ入館者の増加を見込めるかについては不安材料がある。展示に頼らず、解説ボランティア活動を効果的に利用し、常に専門的で新鮮な情報の提供を図り、あそこに行けばいつも面白くためになる話が見聞できるといった事業展開を心がけるべきと考える。そのためには学芸員の不断の調査研究活動が必要となろう。一層の努力を期待したい。

●「通常の開館年とは異なるデータになっている可能性が高い」と自ら指摘しているところであるが、本年度は、リフレッシュオープンと体験ゾーンの新設という特殊事情があるものの、入館者数・観覧料収入などにおいて目標を上回り、マスコミにも多数取り上げられたことは喜ばしい限りである。利用者から親しまれ、愛される博物館づくりを継続するに当たり、ボランティアの協力は重要な鍵となるものと思われる。

●リフレッシュオープンによる来館者増加は、積極的な広報活動と体験ゾーンの新設、記念イベントなどの取り組みの成果として評価したい。またレファレンス件数の向上や今後の来館者数の維持拡大のため、調査・研究の推進や情報発信、学校連携などにさらに努めてもらいたい。

HP上での学芸員紹介や、ツイッターなどによる情報発信、フォロワーの拡大などで、さらに博物館のおもしろさや魅力が伝わることに期待したい。